長崎県島原病院だより

こもれび

Nagasaki Prefecture Shimabara Hospital

2021　10月号

地域に信頼され、親しまれる病院を目指して、
みなさまと当院をつなぎ、
森に差し込む"こもれび"のような、
ひとすじの光をお届けします。

病院機能評価を受審しました

Contents

・病院機能評価3rdG:Ver.2.0 受審
副院長 兼 医療局長 兼 医療安全管理室長　蒲原 行雄 ……2・3

・専門医に聞く
当院循環器内科の取り組み
循環器内科 医長　髙原 靖 ……4・5

・部門トピックス
看護部　緩和ケア認定看護師と診療看護師の紹介 ……6

・連携医療機関・事業所のご紹介
伊崎眼科医院
株式会社こぴっと 訪問看護ステーション美輪 ……7

・おうちで簡単！おいしい kitchen
「簡単！かぼちゃグラタン」……8

病院理念

患者さん本人の立場に立った医療

病院指針

1. 早期診断、早期治療、早期リハビリテーションを医療の基本指針とします。
2. 診療にあたっては、インフォームド・コンセントを基本にして、患者中心の医療を展開します。
3. 早期退院と医療の継続を目的に、病診連携・保健・福祉の連携など、地域につながるチーム医療を展開します。
4. 地域医療を支援する施設として、常に医療水準の向上に努めます。
5. 経営基盤の確立に努め、協働、相互扶助、相互啓発を職場の規範として、活力ある病院づくりを進めます。

病院機能評価3rdG:Ver.2.0 受審

副院長 兼 医療局長 兼 医療安全管理室長　蒲原 行雄

病院機能評価ってご存知ですか？

医療関係者はご存知の方も多いと思いますが、“病院機能評価”とは、我が国の病院を対象に、組織全体の運営管理および提供される医療について、公益財団法人日本医療機能評価機構が中立的、科学的な第三者機関として医療の質の向上と信頼できる医療の確保に関する改善活動支援です（有料です）。

病院機能評価は 1976 年（昭和 51 年）日本医師会に「病院委員会」が設置されたことに端を発し、1995 年（平成 7 年）財団法人日本医療機能評価機構が設立され今日に至っています。

病院機能評価は、国民が安全で安心な医療が受けられるよう、4つの評価対象領域から病院組織全体の運営管理および提供される医療について評価します。その判定は各専門領域（診療管理、看護管理、事務管理）の知識と経験を有する評価調査者（以下「サーベイヤー」）が、チームとなって実際に病院を訪問し、審査を行います。

病院機能評価における対象 4 領域

1、患者中心の医療の推進
2、良質な医療の実践 1
3、良質な医療の実践 2
4、理念達成に向けた組織運営

評　価

S：秀でている
A：適切に行われている
B：一定の水準に達している
C：一定の水準に達しているとは言えない

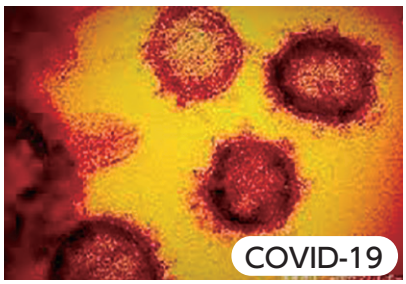
近年、外部機関による企業の評価はほぼ必須となり、代表例は ISO（国際標準化機構：International Organization for Standardization）などがあります。この ISO 評価の目的は “質管理”にあり、いろいろな分野にわたって「組織が自分たちの事業を遂行していくために、継続して改善していく仕組みを内部に持っているかどうか」を評価する仕組みとなっています。

新バージョンの認可を得るべく私達は受審を決めました。

平成 27 年に当院は病院機能評価 3rdG:Ver.1.1 を受審し認定を受けていましたので、ごく当然にその準備を検討していました。平成 32 年の受審をめざして、、、。

しかし、世の中は少しずつ変動していました。以前から前触れはありましたが、まず、平成天皇陛下が譲位され、新天皇による令和の時代になりました。それから程なく、当院でも病院機能評価キックオフ会議が開催されました。前回評価当時とはメンバーも半数以上入れ替わり、頼りになるのは前回の記録と評価指摘項目だけでした。個人的にはこれが5回目（当院2回目）の受審で、これまで私が担当したのは主にケアプロセスと呼ばれる入院から退院までの診療・看護を遂行していく過程における業務の伝達プロセスやチーム医療の実態でした。今回は、“病院構成”からの始まりとなり、テキストに沿って頭を抱える日々が始まりました。模擬サーベイヤーも派遣していただき、職員総動員で資料を揃えました。田中看護部長以下看護部主要スタッフの皆さん、総務課長、医事係長はじめとする事務方の皆さんには厳しい要求もお願いしました。

コロナ禍で…


COVID-19

令和２年のはじめから、新型コロナウイルス感染症が拡大してきました。当初は本邦に影響の少なかった SARS のような感覚でいました。“へーそうなんだー” と。九州西端の島原の地ではその実感は３月あたりからでした。当初は感染確認の PCR も時間を要し、“擬似症” として隔離する手法が主流でした。加えて、物品不足が生じ、ディスポーザブル製品（マスク、ガウン等）の品薄から布製マスクやガウンの仕入れも検討される事態となりました（アベノマスク覚えてますか?）。機構からサーベイヤーの派遣もままならなくなり、機能評価受審は延期となりました。

受審へ向けて

令和３年になってもコロナ禍は続いていました。検査方法、治療法そしてワクチンと対策は少しずつ進みましたが、コロナ禍は第３波、第４波と波状に推移しました。この状態は短期間では解決しないと思われ、現況の中で評価をいただくことに決定しました。

受審の様子

受審当日は機構からのサーベイヤー医師２名、看護師２名、事務関連１名で来院され、まず職員との挨拶、部署訪問および書類審査、さらに講評という流れで２日間行われました。病棟訪問は概ね良好でケアプロセスは好感触でした。

検査科視察

また、各部門の工夫（病理 - 手術室のオンライン迅速報告、電子カルテの画像所見確認アラート、輸血部の廃棄ロス防止の工夫、救急外来のコロナ対応等）は高評価でした。一方で、臨床倫理の取り上げや医療安全の効率化、組織構築など耳の痛い指摘もありましたが、全体的には好感触で終わったように感じられました。

中間報告

8月 19 日中間報告が届き、緊急に修正を要する C 評価はなく、一定以上の評価となる A 評価以上は前回より増加していました。しかし、B 評価もまだあり今後の改善課題です。領域別に見るとは B 評価は組織体制や組織運営の１領域と４領域に集まっており、このことから診療手順や、患者さんへの対応は A の域に達しており、今後は病院における組織構築の強化が重要ということが示唆されます。

病院機能評価審査を終えて

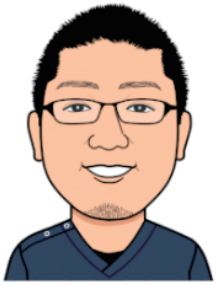
この場を借りて、ご尽力いただいた受審準備委員、木下院長以下幹部職員の皆さん、現場で向き合っていただいた全職員の皆さんに心から御礼申し上げます。

専門医に聞く

当院循環器内科の取り組み

循環器内科 医長　髙原　靖

当院の循環器内科は常勤１名、非常勤１名の２名体制で島原半島地域の基幹病院として心不全、虚血性心疾患、不整脈などの循環器疾患の診療にあたっています。



医長
髙原　靖
YASUSHI　TAKAHARA

生理検査としては心エコーや Holter 心電図（心電図を２４時間記録する検査）、Event Recorder（数日間心電図を貼り付け記録する検査）や運動負荷試験等をおこなっています。下肢動脈 / 腎動脈エコー、経食道心エコー検査も生理検査技師の尽力もあり、すぐに対応可能な状況となっています。

冠動脈 CT は週３回、１日２～３人の枠を設けており、地域の先生方も気軽にオーダーできるようにしています。心臓カテーテルについては、一つの血管造影室を放射線科、脳神経外科と使用していますので、週に１～３回程度、心臓カテーテルやペースメーカー治療を行っています。緊急心臓カテーテル検査については、十分な緊急体制が整っていませんが、地域住民へ医療提供ができるよう可能な限り対応しています。EVT 加療（動脈に対する血管内治療）については、腸骨 / 大腿動脈領域に対して治療をおこなっています。

外来は週 5 回再診 + 新患（内非常勤応援医師外来が週 2 回）と週 1 回外来リハビリの日を設けておりますが、コロナ禍のため現在外来リハビリ自体は休止となっています。地域や院内からの紹介も多く多忙ではありますが、ドクタークラークのサポートにより診療に注力できています。

心臓リハビリでは、早期離床・退院ができるよう PT（理学療法士）/ST（作業療法士）/OT（言語聴覚士）の 3 職種と協力し、早期退院を目指しています。また、CPX（呼気ガスモニターを用いて運動能力を評価する心肺運動負荷試験）も導入されており、入院患者のみでなく外来患者の運動療法も行う事が可能となっています。

病棟は 7 対 1 看護体制であり 2013 年に HCU は 8 床へ増床され、重症患者の管理も可能です。週に 1 回の多職種カンファランスで医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士、MSW（医療ソーシャルワーカー）で話し合う機会を設けており、チーム医療で最短かつ最善の状態で患復帰できるように心がけております。

2020 年の診療実績

循環器内科　年間外来患者数	4,389 名
循環器内科　年間入院患者数	230 名
運動負荷心電図	2 件
心肺運動負荷試験 (CPX)	3 件
ホルター心電図	304 件
経胸壁心エコー	2274 件
経食道心エコー	2 件
頚動脈エコー	390 件
下肢動脈エコー	9 件
下肢静脈エコー	104 件
薬物負荷心筋血流シンチ	21 件
冠動脈造影検査	76 件
ペースメーカー植込み（新規）	15 件
ペースメーカー植込み（交換）	8 件

看護部

緩和ケア認定看護師と診療看護師の紹介

当院では、2021 年 4 月現在、7 領域 8 名の認定看護師と、診療看護師 1 名が活動しています。
今回は、緩和ケア認定看護師の福田さん、診療看護師の安達さんをご紹介します。

2020 年 12 月に誕生　緩和ケア認定看護師　福田 奈実

がんになると、体や治療のことだけではなく、仕事のことや、将来への不安などのつらさも経験するといわれています。また、診断を受けたときには、すでに痛みや息苦しさなどの症状がある場合もあります。緩和ケア認定看護師は、多職種と協働し心と体のつらさを和らげる、患者さんができるだけ積極的にその人らしく生きていけるように支援する、患者さんを支えられているご家族へのケアを提供するなどの役割があります。

私はがん患者さんに関わらせていただく中で、心や体のつらさを和らげることができない症例を多数経験し無力感を抱いていました。そこで、苦痛を予防し和らげることを通して患者さん、ご家族のQOL（生活の質）を向上させるアプローチを学ぶことができる緩和ケア認定看護師を目指し、資格を取得しました。現在は、4 階東病棟に所属し、病棟ラウンドを週 1 回行い、医師や多職種と共に情報交換を行い患者さんの症状緩和に努めています。今後は院内ラウンドへ活動範囲を拡大し、認定看護師として患者さんやご家族へ支援を行う予定です。

認定看護師としての経験も浅く、患者さんやご家族から教えていただくことも数多くあります。患者さんやご家族のつらさを和らげ、患者さんが大切にされているものやその人らしい生活、生きる力となる希望を支えていけるよう地域の医療機関の皆様へ情報発信していきたいと思います。

緩和ケアについてお困りのことがございましたら、お気軽にお声がけください。

2020 年 4 月～勤務　診療看護師　安達 杏菜

診療看護師とは、医師と連携・協働して患者に対し一部の医療行為（特定行為）を行うことができるような教育（大学院修士課程にて医学の知識と高度な看護実践能力を身につける）を受け、日本NP（ナースプラクショナー）教育大学院協議会が認めるNP資格を取得した看護師です。2021 年 4 月現在 583 名が診療看護師の資格認定を受け病院、診療所、訪問看護ステーション、介護老人保健施設などで活動しています。

私は 5 年間の看護師経験を経て 2012 年に大学院へ進学し、2014 年に診療看護師資格認定試験に合格しました。大学院修了後は長崎医療センターで総合診療科や外来部門で診療看護師として経験を積み、2020 年 4 月より島原病院で活動しています。主に入院患者さんの創傷・褥瘡ケアや形成外科医往診の対応を行っています。また、時には褥瘡や慢性創傷の壊死組織の除去、術後ドレーンや中心静脈カテーテルの抜去といった特定行為を通して治療に携わり、病棟スタッフと一緒にケアやリハビリを行ったり、退院・転院のために必要な支援を考えたりと、患者さんの療養生活に密着し、医師―看護師―多職種と連携しながら多方面からのアプローチを行っています。今後は、外来・入院や診療科の枠を超えて組織横断的に活動することで、効率的・効果的な情報共有とシームレスなケアの提供を目指していきたいと思います。また、病院内に限らず地域医療に少しでも貢献できるよう、その方法を模索していきたいと考えています。

連携医療機関・事業所のご紹介

これからの医療は役割分担と連携が大切！
いつもご協力いただいている地域の
医療機関・事業所をご紹介します。

伊崎眼科医院

院長　伊崎　祐介 先生
南島原市西有家町里坊118－1　☎0957-82-2051

「“きずな”を繋ぐ伴走者を目指して」

外科だった父の後を継ぎ、眼科として診療を始めて早いもので、29 年目になりました。

当院では白内障、緑内障、眼底疾患、外眼部、涙道疾患など眼科一般の診療と主に白内障の手術を行っています。日常の診療を支えてくれるスタッフにも恵まれ、これからも地域の眼科医療に少しでも貢献できればと思っております。

先日、パラリンピックの視覚障害者のマラソン選手が”きずな”と呼ばれるロープを頼りにして、「ガイド」の方と伴走する姿を目にして感動いたしました。伴走中にはガイドの方が常に選手に話しかけレースの状況はもちろん、選手の状態をみてペースを合わせながら相手を励まし、一緒にゴールを目指して走られていた姿に胸を打たれました。そこにあったのは「思いやり」と「信頼」という“きずな”でした。この伴走者の姿勢には目の病気を抱える患者さんを診療する我々医療者にとっても、学ぶべきことがたくさんあると感じました。

これからも島原・南高の先生方との病診連携をとりながら「思いやり」と「信頼」という“きずな”を患者さんと繋げることのできるような「ガイド（伴走者）」を目指していきたいと思います。宜しくお願いいたします。

株式会社こぴっと 訪問看護ステーション美輪

管理者　松尾　安代 様
雲仙市小浜町北本町851-1-2　☎0957-73-9500

「一人ひとりの在宅療養者が自分の持てる力を発揮し、その人らしい生活の支援」

平成 26 年 7 月 1 日「在宅での療養生活を地域でサポートする会社」として設立いたしました。当ステーションでは、主治医の先生の指示のもと療養上のお世話・指示書に基づく医療処置・認知症ケアなど「その人らしさ」を大切に尊厳のある看護を提供しております。昨年よりリハビリにも力を入れており、外部の理学療法士さんをお呼びしてリハビリ内容の見直しや安心・安全な移乗動作のアドバイスを頂いております。

ご利用者様だけでなく、ご家族様のサポートもできるよう多職種と連携し在宅で安心した療養生活ができるよう努めております。

また、24 時間 365 日体制で終末期や頻回なケアが必要な患者様のサポート・緊急な訪問にも対応しています。

きめ細やかなケアの提供を目指し、ミーティングでの看護計画の見直し・修正や週 1 回ヒヤリ・ハット事例検討を実施しサービスの質の向上に取り組んでいます。

当事業所の他に居宅介護支援・相談支援事業所を併設

今年 4 月からは児童発達支援 / 放課後等デイサービスを開設しております。

今後も地域に根差したサービスを提供してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

簡単！かぼちゃグラタン

だんだん肌寒くなってきました。秋には「食欲の秋」にぴったりなおいしい旬の食材がたくさんあります。今回は秋の旬の食材を使った身も心も温まる献立を紹介します。もうすぐハロウィンなのでかぼちゃ料理はいかがでしょうか。

管理栄養士　平田 かよ

健康のPoint!

かぼちゃにはβカロテン・ビタミンC・ビタミンE・食物繊維など様々な栄養素が豊富に含まれています。かぼちゃのきれいな色のもとになっているβカロテンは、抗酸化作用や免疫を活発にする作用があります。また、βカロテンは体内で必要な分だけ、脂溶性ビタミンであるビタミンAに変換され作用します。ビタミンAは皮膚や粘膜や目の健康維持、成長促進、抵抗力を高める効果があります。

ビタミンAは脂溶性のため炒め物や揚げ物やドレッシングなど油と一緒に摂取すると効率よく吸収できます。

【材料(2～3人分)】

かぼちゃ	250ｇ
鶏もも肉	200ｇ
玉ねぎ	1/4個
エリンギ	1/2本
しめじ	1/2株
バター	20ｇ
小麦粉	大さじ2
牛乳	250ｍｌ
コンソメ	小さじ2
ピザ用チーズ	20ｇ
塩こしょう	少々

【栄養量(１人当たり)】

(材料を3人分として計算)

エネルギー：288kcal　食物繊維：3.9ｇ
たんぱく質：20.7ｇ　塩分：1.1ｇ
脂質：14.6g

【調理の Point】

Point ①
かぼちゃは生のまま調理すると時間がかかるので事前にレンジで柔らかくしておくことで時間短縮になります。煮崩れしてもさらに濃厚になっておいしくいただけます。

Point ②
ほかの野菜を加えたり、鶏肉の代わりに秋が旬の鮭を使用してもおいしくできます。

【作り方】

①かぼちゃ、鶏肉は一口大に切り、玉ねぎは薄切り、エリンギは半分にして薄切り、しめじは石づきを取ってほぐしておきます。

②切ったかぼちゃは６００Ｗのレンジで３～４分程度加熱し、柔らかくしておきます。

③フライパンにバターをひき、鶏肉・玉ねぎ・エリンギ・しめじを入れ、塩こしょうをふり、さらに小麦粉を加えよく炒めます。

④フライパンに牛乳・コンソメ・柔らかくしたかぼちゃを加え、とろみがつくまで煮込みます。

⑤耐熱皿に移し、チーズをのせて、オーブントースターで３分程、焦げ目がつくまで焼いたら完成です。

外来受診時間

午前8：45～午前11：00

受付時間外に受診される場合は、救急対応となります。
※詳しくはホームページをご覧ください。

休　診　日

土・日・祝日

発行／長崎県島原病院
(広報委員会事務局：地域医療支援センター)

〒855-0861　長崎県島原市下川尻町7895番地
TEL 0957-63-1145(代表)　内線116
FAX 0957-63-6544
URL　http://www.shimabarabyoin.jp/
右のQRコードからアクセスできます→